

# 第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/24】

## 女子1回戦

千葉県選抜 22

5	—	0
7	—	1
6	—	1
4	—	2
PSO		

4 山形県選抜

審判： 御崎 智徳  
太田 一誠

千葉県選抜	30	SH数	11	山形県選抜
	15	速攻数	0	
	25	ST・SB	10	
	18	SH・P誘発アシスト	6	
	33%	GK阻止率	4%	
5	EX反則数	2		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

### 【試合の流れ】

前回大会優勝の千葉が豊富で分厚い選手層で連覇に挑む初戦。

#### 1P

試合開始直後から、攻撃力に勝る千葉が相手ボールを奪い、無駄のないパスから確実性の高いシュートを連続して決め、完全に主導権を握った形。山形の攻撃の芽を摘み、そのチャンスを得点につなげていく展開はさすがにディフェンディング・チャンピオンらしい水球を披露。

山形の攻撃らしいプレーを封じ、第1ピリオドを千葉5-0山形で終えた。

#### 2P

千葉のエンジンはさらにヒートアップし、山形の攻撃を高いポジションで断ち切って独泳状態での速攻を次々に決めて点差をつけていった。一方の山形は防戦一方であったが、ピリオド終盤に千葉の攻撃時の反則からいいポジションでフリースローを得て、そこを風間が6mシュートを決めて、完封を免れるのが精いっぱいだった。

前半を終えて、山形のシュートは5本にとどまり、千葉の14本に圧倒されていた。

#### 3P

千葉の攻撃リズムは変わりなく、ボールを奪ってからの速攻SH、泳ぎ込んでのドライブSHで加点するが、山形は失点後の再開プレーから効果的に退水を奪い、そこをエース風間が決めた場面は山形らしさが出たプレーであった。それでも千葉はひるまず、ペースを維持したまま加点して点差を広げていった(千葉18-2山形)。

#### 4P

さすがの千葉もペースが落ち、相手ボールへのアタックも弱くなったことから山形側もボールが回るようになってきて、退水やペナルティを誘発させてこのピリオド2点を返した。千葉はスピードがやや鈍ってきたこともあって、セットでの攻撃場面が序盤に比べて増えてきた形。それでも決定力には歴然の違いがあり、終わってみれば千葉22-4山形という圧勝であった。

### 【プレー分析から】

千葉は速攻数が示すように、ボールを奪ってからの飛び出しが見事で、プレスディフェンスで相手へのプレッシャーで優位に立った形。

山形は速攻を1本も出すことができず、終始、数的有利な条件を試合で引き出すことができなかった。それでも再開後のプレーで退水を誘発して得点する力は有しているチームなので、泳ぎ合いを含めたボール接点の強化をじっくりと図っていけば、力強い水球を見せてくれるのではないかという期待を感じさせる場面もいくつかあったのは好材料だった。